

## 第5学年 国語科学習指導案

日 時 平成25年11月13日(水) 5校時  
場 所 5年教室  
児 童 男4名 女4名 計8名  
指 導 者 中 澤 達 也

- 1 単元名 ファンタジーのおもしろさをリーフレットで伝えよう  
学習材 「注文の多い料理店」東京書籍 5年下  
宮沢賢治の作品 数冊

### 2 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として「リーフレットで推薦する」ことを位置づける。ここに取り上げるリーフレットは、①キャッチコピー、②あらすじ、③人物像、④おもしろさを伝える「ここがおすすめ」で構成する。

リーフレットは、一枚紙のもので、二つ折り、三つ折りなど折り方を変えることで構成の工夫ができ、伝えたいことが明確になる。そこで、折り目を利用して、ファンタジーのおもしろさを伝えるためのキャッチコピーの短い言葉で人を引き付け、ストーリー、登場人物の人物像、そして最後は「ここがおすすめ」と、目的意識や相手意識を明らかにして、話のおもしろさを伝えることができると考えた。

上記のような構造のリーフレットにまとめることで、本単元の重点指導事項「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること」(読むこと エ)を実現できるようにしている。

### 3 単元について

#### (1) 児童について

本学級の児童は4年生の10月に「ごんぎつね」を学習材に、「場面の移り変わりに注意しながら、人物の関係や気持ちの変化を読み取る力」の育成をねらい、「視点を変えて物語をリライトする」という言語活動を行っている。この学習では、「ごん」の目線で進む物語が、最後の場面だけ、「兵十」の目線で書かれていることに着目させ、場面の移り変わりに注意しながら、人物の関係や気持ちの変化を読み取る力を付けた。

5年生の6月には「世界でいちばんやかましい音」という学習材を使って、「物語の構成や場面に即して人物の変化を読み取る力」の育成をねらい、「物語の構成に気をつけて読み、物語をポップで紹介する」という言語活動を行った。ポップの中には、キャッチコピー、あらすじ、感想の3つの要件を入れた。この学習から児童は、場面の移り変わりや物語の構成、登場人物の心情の変化や場面をとらえる力を付けてきた。

また、10月には「目的に応じて、複数の本や文章を選び比べて読む力」の育成をねらい、「ブックポスターで紹介する」という言語活動を行った。ブックポスターの中には、「キャッチコピー」「作者について」「心に残った場面の紹介」「心に残った場面の絵」を入れた。児童は同じ作者のシリーズの本の中から一冊を選び、その本の強く印象に残った文章を引用しながら、本を紹介する力を付けてきた。

しかし、目的や相手を意識して伝えるという部分が弱く、「推薦する」という表現様式をふまえることに課題が残っていた。そこで、本単元では、作品の特徴をとらえ、おもしろさを伝えるという目的意識をもって、叙述について自分の考えをまとめる力を付けられるように指導していきたい。

#### (2) 単元構成について

本単元で付けたい力は、「登場人物の相互の関係や心情、場面の描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめる力」である。そこで、本単元では、「注文の多い料理店」を学習材に、場面の構成、展開、あらすじ、登場人物の人物像からお話の不思議なおもしろさについて読み、宮沢賢治の作品をリーフレットで表現するという言語活動を通して、「読むこと」の力を付けさせていきたいと考える。

第1次では、「宮沢賢治の作品を読み、ファンタジーのおもしろさをリーフレットで伝える」とい

う言語活動を位置付けた学習をしていくという目的意識を持つ。

第2次では、「注文の多い料理店」について「キャッチコピー」「あらすじ」「二人の紳士の人物像」「ここがおすすめ（話のおもしろさを伝える）」という要件で、リーフレットにまとめる。

第3次では、並行読書してきた宮沢賢治の作品のリーフレットを作り、作品のおもしろさについて伝える。

このようにして、学習材の「注文の多い料理店」の学習で学んだことを生かしながら、リーフレットを作り推薦することを通して、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめさせていく。

本単元で使用する学習材は「注文の多い料理店」（東京書籍5年下）である。この物語は、狩りをしようとしていた二人の若い紳士が山奥で迷ってしまい、偶然見つけた一軒のレストランに入っていくところから始まる。そこは不思議な注文の書かれた戸ばかりでなかなか料理にありつけない。最後に二人は自分たちが山猫に料理として食べられそうになっていることに気づく。ようやく助かった二人の紳士だったが、紙くずのようにくしゃくしゃになった顔はもとには戻らなかったという不思議な話の作品である。作者が工夫を凝らした構成や優れた叙述などに着目して読むことで、ファンタジーのおもしろさを味わうことができる作品である。このことから「注文の多い料理店」という作品は、今回の学習に適した学習材である。

### (3) 指導について

第1次では、単元を貫く言語活動の見通しを持たせ、学習のめあてを設定する。まず、宮沢賢治や作品の紹介、学習材の「注文の多い料理店」の題名について考えさせ、学習への興味を喚起させる。次に、教師が作成したリーフレットをもとに、ファンタジーのおもしろさを伝える「リーフレット」について学習し、言語活動の要件を話し合う。そして、宮沢賢治の作品の中から本を選び、並行読書をしていくことを確認する。最後に、「注文の多い料理店」の初発の感想を発表し合い、物語の構成（「設定」「展開」「山場」「結末」）を簡単にとらえ、要件をもとに「人物像」「あらすじ」「おすすめ」を考えるための読みの視点を明らかにし、学習計画を立てる。

第2次では、学習材の「注文の多い料理店」を読み、ファンタジーのおもしろさを推薦するリーフレットを作る。まず、現実→非現実（不思議な世界）→現実という場面をとらえさせ、場面の移り変わり、場面の不思議さ（おもしろさ）をワークシートに書き、あらすじをつかませる。次に、二人の紳士の会話や行動に着目させ、そこから分かる人物像をワークシートにまとめさせていく。さらに、戸に書かれている言葉と二人の紳士の言動に着目させ、解釈の違いをワークシートに書かせる。最後に、ワークシートにまとめたものをもとに、全体を通してのおもしろさをまとめながら、推薦するための一言を添えて「注文の多い料理店」のリーフレットを完成させる。第3次につながる活動としては、それぞれの学習の時間で学習したことをもとに、並行読書している本ではどうかを考える時間を取る。

第3次では、並行読書してきた本のリーフレット作りをし、作品について推薦し合う。さらに、友達のリーフレットから、他の宮沢賢治の作品に読み広げられるようにしたい。

## 4 単元の指導目標

- 物語に興味を持ち、推薦しようとする理由を明らかにしながら本を読み返そうとしている。  
(関心・意欲・態度)
- 場面の展開に沿って読み、場面の描写、ユーモラスな叙述について自分の考えをまとめることができる。  
(読むこと)
- 物語のおもしろさについて伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。  
(読むこと)
- 比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。  
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

## 5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○リーフレットで推薦する理由を明らかにするために本を読み返そうとしている。	◎場面の展開に沿って読み、場面の描写、ユーモラスな叙述について自分の考えをまとめている。(エ)	○比喩や反復などの表現の工夫を理解している。(イ《ケ》)

	○本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。(オ)	
--	---	--

6 本単元の読みの視点

- (1) 登場人物の会話や行動、情景描写を結び付けながら読むこと。
- (2) 山猫軒の扉の注文と紳士の言動を対比させながら読むこと。
- (3) 情景を表す言葉や場面のつながりを関連づけながら読むこと。

7 単元の指導計画 (全 10 時間扱い)

【本単元につながる学び】				
	目 標	場面の移り変わりに気をつけて、人物の気持ちの変化をとらえる。		
	指導事項	場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の人柄や気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読むこと。		
	言語活動	視点を变えて物語を書き直そう		
	学 習 材	「ごんぎつね」東京書籍 4年下		
次	時	主な学習活動	並行読書	指導上の留意点 (・) と評価 (◇)
1	1	○学習の見通しを持つ。 ・リーフレットについて知る。 ・「注文の多い料理店」を読み、感想を書く。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「注文の多い料理店」という題名について考えさせ、全文通読し、初発の感想を書けるようにする。</li> <li>・並行読書で宮沢賢治の作品を読んでいくことを確認し、並行読書の本を選べるようにする。</li> <li>・「ファンタジーのおもしろさをリーフレットで伝える」という単元を貫く言語活動の見通しを持たせ、リーフレットに書かれてある内容に沿って要件を話し合い、学習していくことを確認できるようにする。</li> </ul> ◇単元を貫く言語活動の見通しを持っている。 (発言・ノート)
	2	○感想を発表し、物語の構成をとらえる。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの感想からおもしろいと思ったことや不思議だと思ったところをもとに、物語を「設定」「展開」「山場」「結末」の4つの部分に分け、「現実の世界—不思議な世界—現実の世界」という流れを押さえられるようにする。</li> <li>・感想から簡単なあらすじ、登場人物、場面分けと要件をもとに「キャッチコピー」「人物像」「あらすじ」「ここがおすすめ」を考えるための読みの視点を明らかにし、学習計画を立てられるようにする。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">視点(1)(2)(3)</span></li> </ul> ◇学習の見通しを持っている。 (発言・ワークシート)
2	3	○物語の大体をとらえる。(あらすじと場面の描写や構成のおもしろさをつかむ)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・初発の感想から、場面の展開に沿って「あらすじ」をつかませ、場面の描写や構成のおもしろさに気づけるようにする。</li> <li>・並行読書している自分の本の「あらすじ」について考えられるようにする。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">視点(1)(2)(3)</span></li> </ul> ◇物語のあらすじをまとめている。 (発言・ワークシート・ノート)

3	4	○物語の全体を通して二人の紳士の変化を読む。(人物像と相互関係のおもしろさをつかむ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語の始めの部分と終わり部分の紳士の会話や行動から人柄や人物の相互関係のおもしろさに気づくようにする。</li> <li>・並行読書している自分の本ではどんな人物が登場し、どんな人柄か(人物像)を簡単にとらえられるようにする。</li> </ul> <p style="text-align: right;">視点(1)(2)</p> <p>◇紳士の会話や行動からどのような人物かをとらえている。(発言・ワークシート・ノート)</p>
	5	○戸に書かれている言葉と二人の紳士の言動を対比して読む。(言葉と会話の対比からおもしろさをつかむ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・扉の注文と紳士の言動を対比させながら山猫の本当のねらいを想像させ、場面の展開のおもしろさに気づくようにする。</li> <li>・並行読書している本の中でおもしろい場面や不思議なところをおすすめ場面として考えるようにする。</li> </ul> <p style="text-align: right;">視点(2)(3)</p> <p>◇扉の注文と紳士の言動から山猫軒の場面のおもしろさを読んでいる。(ワークシート・発言)</p>
	6	○要件に沿って、人物像、あらすじ、おすすめについて再構成し、リーフレットを作る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品全体のおもしろさや不思議さについて再構成し、伝える文章を考え、リーフレット作りができるようにする。</li> </ul> <p style="text-align: right;">視点(1)(2)(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・並行読書している本の中であらすじをまとめ、おもしろさについて考えるようにする。</li> </ul> <p>◇今まで学習してきたものを整理し、要件に沿って「キャッチコピー」「人物像」「あらすじ」「ここがおすすめ」をまとめている。(「注文の多い料理店」リーフレット)</p>
	7	○リーフレットを完成させ、「注文の多い料理店」について推薦し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品全体のおもしろさや不思議さを再構成し、伝える文章を考え、リーフレット作りができるようにする。</li> </ul> <p style="text-align: right;">視点(1)(2)(3)</p> <p>◇リーフレットを完成させ、作品のおもしろさを伝えている。(「注文の多い料理店」リーフレット)</p>
	8・9	○「注文の多い料理店」で学習してきたことをもとに、並行読書をしてきた本のリーフレットを作る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のおすすめの本についてリーフレットを作ることを確認ができるようにする。</li> <li>・第2次に行ってきた学習を振り返りながら、リーフレットに表現できるようにする。</li> </ul> <p>◇並行読書をしてきた本について、リーフレットにまとめている。(リーフレット)</p>
10	○完成したリーフレットを用いて本を推薦し合い、交流する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーフレットをもとに、自分が読んだ宮沢賢治の本を推薦することができるようにする。</li> </ul> <p>◇ファンタジーのおもしろさについて、自分の考えを広めたり深めたりしている。(発言・行動観察)</p>	

【本単元がつながる学び】

目 標 登場人物の関係をおさえて、物語が自分に最も語りかけてきたことについてまとめる。

指導事項 登場人物の関係や人物・場面の描写をとらえ、自分考えをまとめること。

言語活動 人物の生き方を考え、パンフレットで推薦しよう

学 習 材 「海のいのち」東京書籍 6年下

8 本時の指導

(1) 目標

戸に書かれている言葉と二人の紳士の言動を対比させながら登場人物の心情を読み、場面の展

開のおもしろさを読むことができる。

(2) 指導過程

時間	主な学習活動	主な発問(○)と指示(△)	指導上の留意点(・)と評価(◇)
つかむ5分	1 前時までの学習を想起し、本時の課題を確かめる。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の読みの視点を確認する。 「戸に書かれてある言葉と紳士の会話や行動を対比すること」 「登場人物の心情を想像すること」</li> </ul>
	戸に書いてある言葉と紳士の会話や行動から、場面のおもしろさを見つけよう。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 戸に書かれている言葉は料理店の注文であることを確認する。</li> </ul>
ふかめる30分	<p>2 13枚の戸に書かれたある言葉と二人の紳士の会話や行動を対比し、登場人物の心情や物語のおもしろさを考える。(一人学び)</p> <p>3 自分が考えたことを発表し、戸の言葉と紳士の会話からの解釈、話のおもしろさについてグループで交流する。</p> <p>4 グループでの交流をもとに、学級全体で交流し、対比して読むことでのおもしろさについて考える。</p>	<p>○戸に書かれてある言葉と紳士の会話から、紳士は戸の言葉をどのように解釈しているところがおもしろいか考えよう。 △その他の戸の言葉と結びつけた紳士の会話の解釈のおもしろいと思うところをワークシートに書いていきましょう。</p> <p>△自分の考えたことを交流しましょう。</p> <p>○グループで交流したこともふまえ、どこの戸の言葉と会話を比較して、おもしろさを見つけましたか。 △13枚全体から、場面のおもしろさを見つけましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 戸の言葉と結び付けた会話から、二人の紳士が都合のいいように解釈しているところを見つけいくことを確認する。</li> <li>・ いくつかの戸に書かれている言葉と二人の紳士の言動を対比させ、全員で心情やおもしろさについて考え、一人学びに入っていけるようにする。</li> <li>・ 全部の戸と紳士の会話を考えていくのではなく、ここはおもしろさにつながっているところを考えていけるようにする。</li> <li>・ それぞれ、どこの戸の言葉と紳士の会話から、紳士がどう解釈し、それがどんな風におもしろいのかをグループで交流していくようにする。</li> <li>・ 全体交流で山猫軒での場面のおもしろさにつながっていけるようにする。</li> </ul> <p>〈 評価規準 〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◇ 戸の言葉と紳士の会話を対比して読み、自分の考えを持ち、その考えを広げたり、深めたりして、場面のおもしろさを見つけている。</p> <p>支 ワークシートからおもしろさにつながる言葉に着目させ、おもしろさを想像させる。</p> </div>

<p>ま と め る ・ ひ ろ げ る</p> <p>10 分</p>	<p>5 まとめをする。 ・振り返りを行う。</p> <p>・学習のまとめをする。</p> <p>6 本時の視点で並行読書の本を紹介する。</p> <p>7 次時の学習を確認する。</p>	<p>△山猫軒での場面のおもしろさを見つけるためにどのような学習をしてきたか振り返りましょう。</p> <p>△山猫軒での戸の言葉と紳士の会話の場面から、おもしろさをまとめよう。</p> <p>△並行読書をしている宮沢賢治の作品で、「この場面がおもしろい」「ここがふしぎ」というおもしろさを紹介してください。</p>	<p>・本時の課題や読みの視点、思考の流れについて確認し、戸の言葉と紳士の会話を比較して読んでいくことでおもしろさにつながったことを振り返られるようにする。</p> <p>・戸の言葉は、実は二人の紳士に対する注文だったことが場面のおもしろさにつながったことをまとめとして確認する。</p> <p>・学習したことが、並行読書やこれからの活動にどうつながっているか確認する。</p> <p>・今まで学習してきたことを生かして、「注文の多い料理店」のリーフレットを作っていくことを確認する。</p>
--	--	--	--

(3) 板書計画

課題  
山猫軒の戸に書いている言葉と紳士の会話  
や行動から、場面のおもしろさを見つけよう。

十三枚の戸の言葉      紳士の会話

どなた・・・  
ことに太・・・  
当けんは・・・  
注文はず・・・

" "

「ぼくら・・・」  
「なかなか・・・」  
「注文が多すぎて」

" "

" "

" "

" "

視点  
戸に書かれてある言葉と会話を対比すること  
登場人物の心情を想像すること

心情・解釈  
ただでござそうを  
かんげいさされている  
全く疑ってない  
納得している

・書かれてある言葉と会話を対比して読む  
・言葉や会話から登場人物の心情を想像して読む

と場面のおもしろさを見つけることができる

〈山猫軒の場面のおもしろさ〉  
二人を食べるための注文なのに、二人の紳士が料理を食べる前のお店側の注文だと勝手に思い込んで指示に従い、どんどん奥に入っていくところがおもしろい。  
(児童の言葉から)